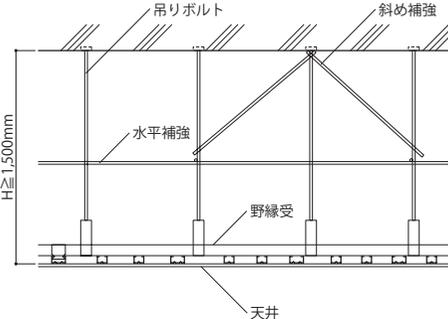


本書の内容に、以下の誤りがございました。お詫びして、訂正させていただきます。

該当箇所	誤	正
98 頁、129 頁 用語：軽量鉄骨壁下地の振れ止め 用語の説明と留意内容	用語の説明：下がり壁や間仕切壁を境に天井に段違いがある場合、または、天井のふとこが 1,500mm 以上の場合、吊りボルトの水平と斜め補強のために振れ止めを設ける。 留意事項：水平補強は、縦横方向に間隔 1,800mm 程度に配置する。斜め補強は、相対する斜め材を 1 組とし、縦横方向へ間隔 3,600mm 程度に配置する。	用語の説明：スタッドの振れを防止する目的でスタッドに引き通して用いる補強材。 留意内容：床面ランナー端から 1,200mm 程度の間隔でスタッドに引き通し、スペーサーで固定する。
117 頁 用語：コンクリートの締固め 留意内容	留意内容：寒冷期の工事では、打込み後、5 日間はコンクリートの温度を 2℃以上に保つ。	留意内容：棒形振動機は、垂直に挿入して加振し、その挿入間隔は 60cm 以下とする。
121-122 頁 用語：鉄骨柱のベースモルタル (H23) 留意内容	留意内容：ベースプレートとその下面のセメントモルタルは、十分に密着するよう施工する。セメントモルタルの塗厚は、30mm 以上、500mm 以内とする。	留意内容：ベースプレートとその下面のセメントモルタルは、十分に密着するよう施工する。セメントモルタルの塗厚は、30mm 以上、50mm 以内とする。
122 頁 エンドタブ 図中文字	溶剤	溶接
124 頁 用語：タイルの密着張り工法 (H21)	張付けモルタルの 1 回当たりの塗付け面積は 3㎡以下とし、モルタルが、目地にタイル厚さの 1/2 以上盛り上がるようにする。	目地に、張付け用セメントモルタルがタイル厚さの 1/2 以下となるように振動を加える。
129 頁 用語：軽量鉄骨壁下地の振れ止め 図	<p style="text-align: center;">軽量鉄骨下地の振れ止め</p> 	図を削除する。